

青梅市の公の施設指定管理者評価シート

令和2 年度実施分

施設名	青梅駅自転車等駐車場、河辺駅北口および河辺駅南口自転車等駐車場		
指定管理者名	友輪株式会社		
指定管理期間	令和2年4月1日～令和3年3月31日	担当課	都市整備部管理課
設置目的	自転車および原動機付自転車の放置防止を図り、市民の良好な生活環境を確保するため		

評価ランク	評価内容
S	協定等を遵守し、仕様よりも優れた管理であった。
A	協定等を遵守し、仕様に沿った管理であった。
B	協定等を遵守し、おおむね仕様に沿った管理であったが、一部に課題があった。
C	協定等を遵守できず、仕様に沿った管理ができなかった。

評価項目	評価内容	評価方法	指定管理者評価	評価理由	担当課評価	
管理状況	適性な管理の履行	協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているか。 ・業務の履行(清掃・巡回の回数など)は適切か ・人員配置は適切か。 ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	事業報告書 業務日誌 人員配置表	A	協定書および事業計画書を基にした人員配置を行い、清掃・巡回等協定および事業計画どおりに行った。	A
	事業報告	定められた期間での報告および連絡が指定管理者からされているか。	月次報告書 事業報告書	A	定められた期間中に提出した。	A
	安全性の確保	管理区域内の安全性については十分に確保されているか。 ・施設の安全性は確保されているか ・協定や事業計画どおりの管理となっているか など	消防設備点検 年次維持計画 日常点検票	A	施設・設備の日常点検票を作成し、毎日点検している。	A
	法令等の遵守	個人情報保護のための体制、書類および情報の整理および保管等は適正であるか。 ・市への報告は適時、適切にされているか など	個人情報保護責任者の任命 鍵がかかる書庫等に保管 管理員研修	A	個人情報保護責任者を任命し、保管状態等を確認した。コロナ禍のため個人情報保護に係る全体研修は行えなかったが、個別に研修を行った。	A
	業務記録	業務等の記録は、適正に作成、整理および保管がされているか。	業務日誌を作成し市への提出	A	業務日誌を作成・保管するとともに、市にPDFで報告した。	A
	緊急時対応	災害時等の緊急時の体制は整っているか。	緊急連絡体制 緊急連絡網	A	緊急連絡体制および緊急連絡先は更新し、管理室内に掲示している。	A
		災害時等の緊急時の対応研修、訓練等は行っているか。	防災訓練の実施	S	青梅消防署のマニュアルを基に自衛防災訓練を行った。	S
適切な財務・財産管理	適切な財務運営・財産管理が行われているか ・建物や器具の破損、物品の紛失等はあるか など	日常点検票	A	建物の照明器具等は、修繕報告をした。物品が経年劣化等で破損した場合は、同等品を購入した。	A	
事業効果等	事業の取組	事業計画どおりのサービスが提供されているか ・事業の計画、実施、成果は計画どおりか など	事業計画書	A	事業計画書のとおりに行った。	A
	利用の状況	事業計画どおりの利用状況となっているか ・利用者は事業計画どおりか(環境の変化など外部要因を考慮)	日報 月報	A	新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度の利用が低迷した。	A
	利用者意見の収集	利用者アンケート等を年1回以上実施し、利用者意見の収集をおこなっているか	アンケート	S	利用者の意見をより多く収集するため、粗品付きアンケートを実施した。	A
		利用者の満足度を得られているか ・職員の接客対応、利用条件等は適切か	アンケート	S	満足しているという結果を得られた。	A
	利用者意見に対する対応	利用者アンケート等による意見に対し、適切に改善策が講じられているか	アンケート	S	指定管理者の範囲で備品等を設置した。	A
	行政目的の達成	行政と連携を図り施設の目的を達成しているか ・施設の設置目的を達成しているか ・市および関係機関との連携が適切に行われているか など	事業報告書	B	コロナ禍のため、駅前放置自転車クリーンキャンペーンの参加等での連携が図れなかった。	B
その他提案内容等	指定管理者選定時に提案のあった事項等について、提案とおりに実施できたか	事業計画書	A	提案どおりに実施した。	A	

会計	処理	管理業務の会計に関する帳簿、書類の整備および保存は適正にされているか。	保管	A	管理業に関係する帳簿、書類は、三菱倉庫に保管した。	A
	管理	現金等の管理は適正であるか。また、金庫等の鍵の管理は適正であるか。	現金動産保険 銀行納付	A	保管時移送時の盗難に備え現金動産保険に加入した。金庫等の鍵は、管理員にしかわからない場所で管理した。	A
収支状況	施設の収支決算状況	赤字決算に陥っていないか。予算と決算に大きな相違があった場合はその相違の理由が的確である。	月次報告書 収支予算書 事業報告書	A	収支予算書のとおりに行った。	A
	指定管理者の収支決算状況	経常利益率(経常利益÷売上高×100(当期経常増益額÷経常利益×100))がプラスになっており、赤字決算に陥っていない。	貸借対照表 損益計算書	A	経常利益率1.14%で利益が出ている。	A
		借入金に依存した資本構造ではなく、自己資本比率(自己資本(または正味財産)÷総資本×100)が30%以上となっている。	貸借対照表 損益計算書	S	借入金なし。	S
	流動比率(流動資産÷流動負債×100)が100%以上となっており、事業継続の安全性に不安がない。	貸借対照表 損益計算書	S	流動比率は378.2%で安全性が高い。	S	

1 指定管理者自己評価における評価理由、意見等

評点	数
S	6
A	14
B	1
C	0

記入欄

協定や事業計画に沿った管理が適切に履行されているかを常に確認しながら本年度の業務を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大の中、管理員に対し三密防止の指導、消毒液の支給、不織布マスクの支給および着用の義務化など健康管理を徹底しました。また、受付カウンター、筆記用具など利用者の手が触れる物の消毒を徹底し、安全、安心してご利用いただきました。

2 市の評価、意見等

評点	数
S	3
A	17
B	1
C	0

記入欄

協定や事業計画にもとづき、適切に管理が施行されている。新型コロナ感染症拡大防止のため、利用者に安心してご利用していただけるように管理員への三密、マスクの着用、消毒液の利用などを今後も徹底して行っていただきたい。